

## 第 3 回 ごみ処理基本計画策定検討専門部会 指摘事項と対応方針

項目	No	第 1 回 専門部会 指摘事項	対応方針
SDGs ゴールマークについて	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>SDGs は 2030 年をゴールとしており、本計画の目標年度である令和 15 (2033) 年には終了している。この図は小さくするか、あるいは載せなくてよいのではないか。(島岡部会長)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>図を小さく調整しました。 【資料 1 P1】</li> </ul> <p>今時点では、世界的流れとして SDGs が掲げられているため掲載し、5 年後の中間見直しの時に掲載の仕方を再考します。</p>
市の概要について	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>人口動態や産業の発展や大きなプロジェクトなど、ごみと関連するようなものは文章で示してはどうか。(島岡部会長)</li> <li>鉱工業の総生産額だけでなく、他の産業も書いていただきたい。市民の多くがどのような職業なのかがわかる方がよい。(渡邊委員)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>第 1 次産業、第 2 次産業、第 3 次産業など就業者情報や、開発計画「JR 古賀駅東口周辺地区整備計画」について記載しました。 【資料 1 P5】</li> <li>人口動態(将来人口)については第 4 章に記載しました。【資料 1 P44】</li> </ul>
ごみ組成調査の頻度について	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>人間の健康診断と同じくごみ組成調査はごみ処理施策のベースとなる。トレンド把握のため、毎年ごみ組成調査を実施してはいかがか。(島岡部会長)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ごみ組成調査実施の回数につきましては費用対効果をふまえて検討していきます。</li> </ul>
動画を用いた情報発信について	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>SNS を使い動画で実物を見せながら優しい日本語を使って発信すると、外国の方にも分かりやすいのではないか。(渡邊委員)</li> <li>母国語の字幕を付けてはどうか。ごみの分別方法についてテーマ毎に短編動画を作ってはどうか。(小林委員)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>視覚に訴える広報の手法を検討していきます。</li> </ul>
分別収集の問題点について	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>組長になった際に分別収集の学習がないため指導できない。(武田委員)</li> <li>高齢化により、分別収集の担当者が不足しつつある。また、高齢化や病気のため、分別収集会場への持ち込みが困難な方も居る。近所に収集場所の設置や収集頻度を増やすことも検討して欲しい。(小林委員)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>分別収集の有り方についての検討を記載しました。【資料 1 P56】</li> </ul>

項目	No	第1回 専門部会 指摘事項	対応方針
環境教育プログラムの活用について	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年度始めに小中学校の校長や教頭へ環境アドバイザーと環境プログラムを案内しているが、実施に至らない。年度当初には一年間の学校のカリキュラムが決まっているのため、活用してもらえていない可能性がある。(事務局)</li> <li>・知って頂くため、高校の文化祭や地域のお祭りやイベントで模擬的なワークショップなどをしてはどうか。(小林委員)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境人材バンク制度の活用促進について記載しました。 【資料1 P55】</li> </ul>
災害時の対応について	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・雨量から災害を予測する、潜在的なボーダーラインがあるのではないかと。それを把握できれば、いざ氾濫した時に早く手が打てる。(小林委員)</li> <li>・古賀市だけで被害があった場合に、他自治体から災害廃棄物の処分を断られる場合もある。災害の際の協定を結ぶとよい。(島岡部会長)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害時の対応について記載しました。 【資料1 P56】</li> <li>・災害時の協定一覧を記載しました。 【資料1 P35】</li> </ul>
目標指標「リサイクル率」「資源化率」「再生利用率」の使い分けについて	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国的に見て古賀市がどういう位置付けにあるのかを見るため、できるだけ国、県が使っている目標がよい。(島岡部会長)</li> <li>・「リサイクル」には「出口のリサイクル」「入口のリサイクル」「サーマルリサイクル」など、広い意味を持つため「資源化率」がよいのではないかと。「再生利用率」はよく分からない。(島岡部会長)</li> <li>・若い人は「リサイクル」に馴染みがあり、使いやすいのではないかと。(渡邊委員)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標指標は以下のとおりとする。 「資源化率(リサイクル率)」 「1人1日当たりの生活系ごみの排出量」 「1日当たりの事業系ごみの排出量」</li> <li>・参考値として以下を設定する。 「1人1日当たりの家庭系ごみの排出量」 【資料1 P47】</li> </ul>

項目	No	第1回 専門部会 指摘事項	対応方針
目標指標「生活系ごみ」「家庭系ごみ」の使い分けについて	9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が出しているごみの量について「家庭系ごみ」の方がイメージしやすいのではないか。(渡邊委員)</li> <li>・国や県の目標と比較するためには「家庭系ごみ」がよいかもしれない。(島岡部会長)</li> <li>・家庭系ごみは資源ごみを引いた量となるので、資源化率(リサイクル率)の目標と重複する。目標はシンプルな方がよい。(島岡部会長)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標指標は以下のとおりとする。 「資源化率(リサイクル率)」 「1人1日当たりの生活系ごみの排出量」 「1日当たりの事業系ごみの排出量」</li> <li>・参考値として以下を設定する。 「1人1日当たりの家庭系ごみの排出量」</li> </ul>
目標指標の決定について	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今回の意見を元に事務局で目標指標を検討いただきたい。決定した内容を委員に送付してほしい。(島岡部会長)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標指標はNo.8、9の通りです。</li> </ul>
陶器や布類の再資源化について	11	<ul style="list-style-type: none"> <li>・古賀市のリサイクル率が低い要因として布類が大きい。(小林委員)</li> <li>・陶器や衣類を再利用できるとよい。(武田委員)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先行自治体の取り組みについて費用対効果をふまえて研究していきます。</li> </ul>
リサイクル率向上のための研究	12	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「循環型社会の形成に関する研究の継続」にリサイクル率を上げる方法の研究を含めてはどうか。(島岡部会長)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭系ごみ、事業系ごみそれぞれにリサイクル率向上のための研究について記載します。 【資料1 P50～52】</li> <li>・製品プラスチックの資源化に向けた研究について記載します。 【資料1 P57】</li> </ul>
水切りについて	13	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生ごみを水切りして軽くしても量は一緒。食物残渣が出ないようにすることが大事。(島岡部会長)</li> <li>・水切りの前に、食品ロスが出ないようにすべき。(渡邊委員)</li> <li>・「水切り」よりごみになるものは受け取らないリフューズの考え方を見出しにするとより本質的になる。(島岡部会長)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生ごみを減量するための啓発促進について、リフューズの考え方をふまえて記載しました。 【資料1 P50】</li> </ul>